



今年、鉄道開業150年。そして、「内部・八王子線」も開業100周年・110周年の記念年です。というわけで、今回の「地域資料室だより」では、電車はもちろん、色々な「のりもの」に注目。「のりもの」に関する地域資料と、「飛行機」に夢をかけた「日本のライト兄弟」と呼ばれた「玉井兄弟」を特集します。

地域資料でワクワクのりもの！

地域資料室にも”乗り物の本”ってあるの？

もちろん、あります！



乗り物に関する資料は、背ラベルL68の所にたくさんあります。

L68

県内には、どんな乗り物があるでしょう…

- 『みんなののりもの大集合』三重県総合博物館/編集・発行、2017
県立博物館で開催された企画展の図録。県内の鉄道の歴史も載っています。
- 『たのしみえののりもの』三重県雇用経済部観光・国際局観光誘客課/編集・発行、2014
船・電車からジェットコースターまで、県内のあらゆる乗り物を紹介。
- 『三重のええとこ写真集』多田 良平/制作・撮影、2020
県内の絶景を紹介した写真集。漁船や電車が写る風景も多く収録されています。

他にもいろいろ…

- 〔バス〕 『三重交通』BJエディタース/編集・発行、2001
- 〔レーシングカー〕 『SUZUKA』三重県総合博物館/編集・発行、2015
- 『鈴鹿や富士を翔けた名車たち』四日市市立博物館/編集・発行、2005
- 〔ロープウェイ〕 『御在所ロープウェイ 20年のあゆみ』御在所ロープウェイ株式会社/編集・発行、1979
- 〔遊園地〕 『目で見ると長島温泉の30年』長島観光開発株式会社/編集・発行、1994

四日市といえば港！

- ◆ 四日市港では清掃船「じんべい」が、港をきれいにしています。「じんべい」の写真は、四日市港管理組合発行の「四日市港ニュース No.95」で、みることができます。そんな清掃船の姿を描いた絵本『せいそうせんのくりんまる』(こどものとも674号) 鎌田歩/さく、福音館書店、2012 も、ありますよ！
- ◆ 四日市港や海上交通の歴史とともに、各時代に使われていた船を知りたいなら、『海と港の博物館』四日市市立博物館/編集・発行、1999 に、模型の写真が載っています。

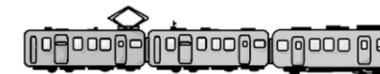
乗り物の歴史が知りたい！ 地域資料室には、乗り物の歴史が分かる資料や社史もあります。

- ・『四日市の昭和の鉄道』四日市市立博物館/編集・発行、2018
- ・『関西鉄道史』奥田 晴彦/著、鉄道史資料保存会、2006
- ・『東海地方の鉄道敷設史』(I・II・III) 井戸田 弘/著、〔2002-2008〕
- ・『鉄道ファンのための私鉄史研究資料』和久田康雄/著、電気車研究会、2014
- ・『近鉄湯の山線の歴史』桜郷土史研究会/編集・発行、2018
- ・『近畿日本鉄道100年のあゆみ』近畿日本鉄道/編集・発行、2010
- ・『三重交通50年のあゆみ』三重交通株式会社創立50周年記念事業推進委員会/編集、三重交通/発行、1994
- ・『三岐鉄道50年の歩み』三岐鉄道株式会社/編集・発行、1981

地域資料の中でいちばん資料数が多い乗り物は、電車！

※その一部をご紹介します。

- 『大手私鉄サイドビュー図鑑 07・08(近鉄通勤車)』イカロス出版、2022
・通勤通学などで馴染み深い近鉄電車の車両を紹介。「あすなろ鉄道」、「三岐鉄道北勢線」、「養老鉄道」の車両も掲載されています。
- 『JR路線大全VI』「旅と鉄道」編集部/編、天夢人、2020
・関西本線・紀勢本線・参宮線・名松線などが紹介されています。
- 『貨物鉄道博物館 OFFICIAL GUIDEBOOK』貨物鉄道博物館事務局/著・発行、2019
『DD51形輝ける巨人』徳田耕一/文・写真、交通新聞社、2019
・引退したDD51など、貨物列車についての資料もあります。
- 『モノクロームの軽便鉄道』諸河久/著、イカロス出版、2019
『養老線電車回顧』清水武/著、ネコ・パブリッシング、2018
『徹底解説！三岐鉄道』南野哲志/著、南野クラフト建築設計室、2011
『小さな鉄道の小さな旅』・『小さな鉄道のぶらり旅』長屋良行/著、ゆいぽと、2018・2019
・北勢線、三岐鉄道、あすなろ鉄道、伊勢鉄道、伊賀鉄道…県内のローカル線に関する資料もあります。



市立図書館の「のりもの」！ みなと号&かもめ号

図書館の乗り物といえば、「移動図書館車」(自動車文庫)。
四日市市立図書館の自動車文庫は、図書館から離れた所に住んでいる人にも、本に親しんでもらえるよう、昭和39年から始めました。
現在は、黄色のみなと号5世と、青色のかもめ号3世が、約3000冊の本を載せ、月に一度、91か所の停車場所を巡回しています。 ※日程や停車場所は市立図書館ホームページで確認できます。

◎自動車文庫に関する記載のある資料はこちら

- 「四日市市立図書館概要」、『四日市市立図書館年表』(いずれも、四日市市立図書館/編集・発行)
- 「広報よっかいち 平成29年4月上旬号」
- 『三重県の移動図書館活動』(三重県図書館協会/編集・発行)



四日市には、他にもこんな乗り物や乗り物スポットが！

- ・四日市市立博物館の移動天文車「きらら号」
- ・おもしろ自転車が体験できる「伊坂ダムサイクルパーク」
- ・船に乗って「夜景クルーズ」

☆「地域資料でワクワクのりもの！」「四日市と凄い人列伝 玉井兄弟」で紹介した資料は、2022年11月23日(水)～2023年1月22日(日) に、プチ展示として地域資料室内に並べます。

※背表紙に赤い「禁帯出シール」 がついていない資料は借りることができます。

四日市市立図書館

〒510-0821 四日市市久保田一丁目2-42 電話:059-352-5108 ファックス:059-352-9897
E-mail:tosyokan@city.yokkaichi.mie.jp ホームページ:https://www.yokkaichi-lib.jp/

四日市と凄い人列伝



玉井兄弟 (玉井清太郎・藤一郎)

たまい せいたろう とういちろう
1892-1917 1894-1978

玉井兄弟って？

玉井兄弟は、四日市市浜田(現諏訪栄町)生まれ。ともに飛行機製作や飛行士の育成などに尽力した民間飛行家で、日本の民間航空史に名を残した兄弟として、「日本のライト兄弟」ともよばれている。

【兄・清太郎】

明治25年生まれ。
16歳の時、竹とんぼが飛ぶのを見て飛行機製作を決心。研究を始めた。
資金繰りや、召集などの理由で何度か中止を強いられたが、鉄工所を営む友野直二の協力を得て、大正5年に玉井式水上飛行機「日本号」を完成させた。
翌年、操縦士をあきらめ飛行雑誌の記者をしていた相羽有(あいばたもつ)とともに東京羽田に日本飛行学校・日本飛行機製作所を設立。教官を務めた。
ここで製作した玉井式3号機で、大正6年、東京訪問飛行を果たした。しかし、この飛行の3巡目、着陸時に墜落。清太郎は、帰らぬ人となった。



【弟・藤一郎 (のち照高と改名)】

明治27年生まれ。
明治45年に兄とともに上京し、飛行機製作に参加。日本飛行学校にも関わる。
兄の死後、遺志を継ぎ、羽田飛行機研究所を設立。栗津飛行研究所の栗津実(あわつみのる)の依頼により「青鳥号(せいちょうごう)」を製作した。
大正8年には、その「青鳥号」を借り、兄の念願であった郷土・四日市での飛行を成功させた。
大正10年、横浜に玉井飛行場を開設するも、関東大震災により使用不能となり、飛行場を閉鎖。航空界から引退した。



Pickup!

『日本民間航空史話』(日本航空協会/発行, 1975) ※地域資料室内でご覧いただけます。

この資料には、玉井藤一郎による「昔の民間飛行家の思い出」が掲載されています。そこには、玉井式1号機の造りや、兄の死後の飛行家としての自身の歩みなどが綴られています。
また、この資料には、清太郎と飛行学校を作った「相羽有」や、藤一郎に飛行機製作を依頼した「栗津実」など、民間航空史に名を残した人物の寄稿文もあります。

四日市市内で行った飛行実験など

- ◆ 浜田小学校校庭で、試作飛行機を組み立てる(明治43年)
- ◆ 尾上町付近で、飛行機用エンジンの性能試験(明治45年)
- ◆ 午起海岸で「日本号」の飛行実験。海上から離陸できず。(大正5年)
- ◆ 藤一郎による、清太郎の追善飛行。「青鳥号」で四日市築港埋立地から離陸し、浜田・常磐・河原田・富田浜・坂部の上空を飛行した。(大正8年)

玉井兄弟に関する地域資料

※ ○の資料は市立図書館内に貸出可のものがあります。

資料名	著者	出版社	請求記号	発行年	
よんぶん 創刊号	四日市市文化まちづくり財団/編集	四日市市文化まちづくり財団	L/051//1	2020	○
のびゆく四日市	四日市市教育委員会/編集	四日市市教育委員会	L/223//	[2022]	○
日本の空のパイオニアたち	荒山彰久/著	早稲田大学出版部	L/538//13	2013	○
広報よっかいち 平成25年度分集録版	四日市市/編集	四日市市	L/318//13	2013	○
四日市の礎	志水雅明/著	四日市市文化協会	L/282//09	2009	○
四日市市史 18巻	四日市市/編集	四日市市	L/223//18	2000	○
近代四日市の幕開け	四日市市立博物館/編集	四日市市立博物館	L/282//	1997	○
四日市市立博物館常設展示案内	四日市市立博物館/編集	四日市市立博物館	L/223//	1994	○
まんが四日市ものがたり		四日市異業種交流プラザ	L/223//	1993	○
伊勢志摩のイカロスたち	平木国夫/著	酣灯社	L/53//	1988	×
文化展望四日市 第4号	四日市市文化振興財団/編集	四日市市文化振興財団	L/051//4	1986	○
日本飛行機物語 首都圏篇	平木国夫/著	冬樹社	L/53//	1982	×
目でみる郷土史四日市のあゆみ	市民部地域振興課/編集	四日市市役所	L/223//	1978	○

Pickup!

『日本の航空史 写真集(上)』(朝日新聞社/発行, 1983) ※いずれも地域資料室内でご覧いただけます。

玉井兄弟が製作した飛行機は、どんなものだったのか、それを写真で見ることのできる資料です。玉井式飛行機の各号や、青鳥号の写真も載っています。
また、上の一覧で紹介した『伊勢志摩のイカロスたち』にも、写真の掲載があり、市内で行った飛行実験の様子など見ることができます。

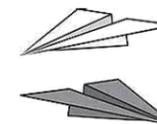
玉井兄弟に関する資料～地域資料以外～ ※いずれも市立図書館所蔵の資料です。

玉井清太郎が、教官を務めた「日本飛行学校」には、一期生に円谷英二(特撮監督)、青木茂(児童文学者)、受験生に稲垣足穂(小説家)などがいました。
その関係者に関する資料の中で玉井兄弟が登場するものを一部紹介します。

・『大空への夢』鈴木 和幸/著, 大月書店, 2019
円谷英二の伝記的資料。日本飛行学校での出来事や、清太郎とのエピソードも載る。

・『稲垣足穂全集 6』稲垣 足穂/著, 筑摩書房, 2001
収録の『ヒコキ野郎たち』の中には、玉井兄弟や円谷英二の名前が登場する。

『航空めぐるイマージュ』加藤夢三/著(『ユリイカ 2021年10月号』清土社/発行に収録)などによると、円谷英二は、この稲垣の作品を基に、航空界の出来事を映像化しようと企画を練っていたが、実現にいたらなかった。



※背表紙に赤い「禁帯出シール」がついていない資料は借りることができます。

